

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
高松市（香川県）

全体総括

○計画期間：平成25年6月～平成30年3月（4年10月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市では、第2期高松市中心市街地活性化基本計画（以下「第2期計画」という。）のコンセプトである「にぎわい・回遊性・豊かな暮らしのあるまちを目指して」に基づき、瓦町駅核化プロジェクト事業などの各種事業に取り組んできた。

① 高松丸亀町商店街

第1期高松市中心市街地活性化基本計画（以下「第1期計画」という。）で完了した A、B、C 及び G 街区の再開発事業の効果が現れる中、第2期計画では3町ドームでの積極的なイベント開催やゾーニングとテナントミックス（テナントリーシング）を行い、多彩な魅力を創出してきた。

加えて、中心市街地エリアの回遊性やアクセス性の向上を目的に、平成27年3月から、高松丸亀町振興組合と、ことでんバスが連携して運行している「まちなかループバス」の運行が開始されるなど、来訪者の回遊性向上に寄与した。

② 中央商店街南部地域

平成25年12月の常磐町商店街アーケード整備事業完了により、採光性が高まり、快適な空間が提供されることで、来街者がより安心して通行できる環境が創出された。

また、公共交通の主要結節点であることでん瓦町駅に直結する「高松天満屋（百貨店）」が平成26年3月末に撤退したことにより一時、にぎわいに陰りが見えたが、27年10月に「瓦町FLAG」が（瓦町駅核化プロジェクト事業が完了）誕生した。

「瓦町FLAG」は、四国並びに香川初を含む、80店舗以上の構成となっており、屋上の11階には緑の空中庭園「カワラパーク」が憩いの場として開放されるなど、本市にとって、多彩な魅力を持ったにぎわいの拠点として再生した。「瓦町FLAG」のオープンは、中心市街地の歩行者通行量に影響を及ぼしており、オープンを大きな契機として、周辺の高松中心市街地南部地域の活性化はもとより、更に、中央商店街、中心市街地全体へと、今後ともにぎわいが波及していくことが期待される。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

（中心市街地区域内）	平成24年度（計画期間開始前年度）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（計画最終年度）
人口	20,577	20,524	20,490	20,506	20,529	20,521
人口増減数	+41	-53	-34	+16	+23	-8
社会増減数	-124	-55	-80	-95	-135	-172
転入者数	1,006	1,008	983	965	996	963

※各年度4月1日基準日

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

- ①概ね順調に進捗・完了した ②順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第2期計画に搭載している全51事業のうち、瓦町駅核化プロジェクト事業など11事業が完了し、ソフト事業など29事業が継続実施中、11事業が未完了(うち3事業が未着手)となった。

中心市街地を取り巻く現状としては、全国的な人口減少が進む中、中心部の人口は横ばいで推移している。

第2期計画が終了し、計画が掲げた3つの評価指標全てにおいて、目標値を達成することはできなかったものの、27年度に瓦町FLAGオープンの効果もあり、前年度(26年度)より10,126人歩行者通行量が増加するなど、一定の効果が現れている。

また、平成27年度には、地域の消費喚起、地域経済の活性化を図るために販売価格に一定のプレミアム分の金額を上乗せした「高松プレミアム商品券」が発売され、商店街組織に加入している参加店舗に限り使用できるプレミアム率25%の「高松とくや券」は、発行11万冊が完売した。参加店舗のうち、約65%(約430店舗)が中心市街地の店舗であり、地域の消費喚起はもとより、中心市街地のにぎわいの創出に寄与したものと考えられる。

全体の数値としては表われてはいないものの、中央商店街北部地域は高松丸亀町商店街による街区ごとのコンセプトに基づいたテナントリーシングを積極的に行い、個店ごとの力を発揮しながら、休日などはお年寄りやファミリー層、若者など老若男女が商店街に訪れているなど、まちなかの回遊性やにぎわいづくりに貢献しているほか、中央商店街南部地域においては、瓦町FLAGオープンを契機としてそれぞれの商店街の特色を生かした取り組みを行っている。(高松南部バーチャル商店街事業など)

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
②若干の活性化が図られた
③活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)
④活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

【詳細を記載】

高松市中心市街地活性化協議会は、第2期基本計画について、行政や関係団体等と協議を行ったうえで、諸事業の推進を図ってきた。

第1期計画で完了した高松丸亀町商店街の再開発事業は、第2期計画ではイベント開催、テナントミックス、あるいは「まちなかループバス」の運行へとつながり、一定の効果があつた。

また、中央商店街南部地域においても、「瓦町FLAG」が誕生したことにより、オープン時に、通行量の増加をもたらすなど、限定的ではあるが、効果がみられた。

第2期計画に位置付けた51事業のうち、計画に掲げた3つの目標は、いずれも未達成となったものの、ITの普及に伴い、仮想空間でのショッピングが盛んになるなど、生活者の消費行動も劇的に変化してきている中で、人とのふれあいを求めるムーヴメントを踏まえ、ハードウェア整備に加えソフト事業を展開した第2期計画は、前述のとおり一定の効果をもたらしている。

このような点から、第2期計画の取組に対する当協議会の意見は、「②若干の活性化が図られた」とし、さらに事業内容を充実し、継続することが適切であると提言するものである。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①かなり活性化が図られた
- ②若干の活性化が図られた
- ③活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
- ④活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第5次及び第6次高松市総合計画の各施策に対する市民満足度調査(平成 25～29 年度)

調査日:各年度の1月中旬～1月末

調査方法:平成 25～27 年度は 2,000 人

平成 28 及び 29 年度は 2,500 人

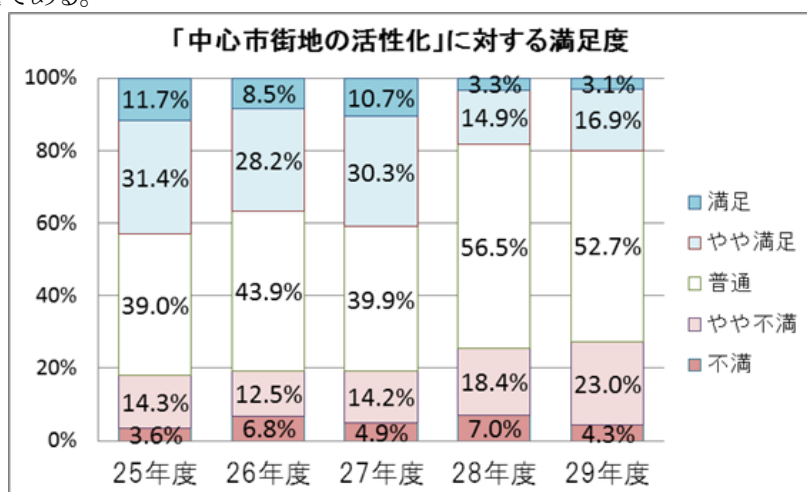
各年度 1 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出した満 18 歳又は満 20 歳以上に対し、調査票を郵送で配布・回収

回収率(平均):38%

本市では、市民の意見を今後の市政に反映させるため、高松市総合計画の基本構想で施策大綱として定めている政策、及び施策に対する満足度等を調査している。

このうち「中心市街地の活性化」の満足度については、平成 25 年度から 27 年度までは、「満足」または「やや満足」と答えた人の割合は高かったが、28 年度以降は減少傾向にある。

また、自由意見の中には、丸亀町商店街を含む中央商店街北部地域に対する満足度を感じる意見は見られたが、南部地域とのにぎわいの違いに、さみしさを感じているとの意見や、人の流れが循環するまちづくりが必要の意見もあり、中心市街地全体でのにぎわいの創出や回遊性の向上が今後とも重要な課題である。



6. 今後の取組

「中心市街地の活性化」に対する市民満足度は、第 1 期計画では、再開発事業などのハード整備を核とするまちづくりの展開により、徐々に改善されてきた。第 2 期計画では、医・食・住をコンセプトとしたことによりソフト事業を展開したが、満足度を高めるまでには至っていないため、今後は、買物や飲食などに加え、多様なニーズ対応した生活の付加価値を高める提供ができる新たな取組が必要である。

加えて、中心市街地のエリア毎に特色を生かした取組により、人の流れを創出し、循環させ、全体としてのにぎわいの創出に繋げていくことが課題となる。

その上で、第 3 期計画でも評価指標を継続して評価し、状況に対応した施策を展開していくPDCAサイクルに取り組むこととする。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
商店街独自の魅力あるサービスを創出する	中央商店街の空き店舗率(全フロア)	16.6%	14.9%	17.8%	平成29年6月調査と12月調査の平均	<u>c</u>
まちのあちこちで歩いている人を増やす	中央商店街における歩行者通行量(休日)	131,878人	141,000人	118,567人	平成29年5月調査と10月調査の平均	c
中心市街地に、より住みやすい環境をつくる	市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合	4.8%	5.1%	4.8%	平成29年10月	<u>c</u>

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

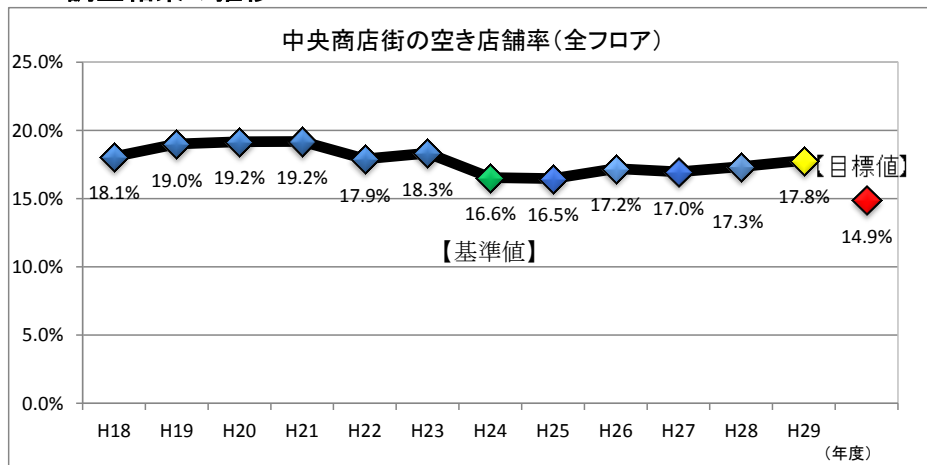
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標 1 「商店街独自の魅力あるサービスを創出する」

「中央商店街の空き店舗率（全フロア）」※目標設定の考え方基本計画 P59～P61 参照

1. 調査結果の推移



年	%
H24	16.6 (基準年値)
H25	16.5
H26	17.2
H27	17.0
H28	17.3
H29	17.8
目標値	14.9

(H24 は、6月調査実績。H24 以外は、各年 6月調査と 12月調査の平均値)

※調査方法：年 2 回、中央商店街店舗立地動向調査を実施

※調査月：6月、12月（取りまとめは、7月及び 1月）

※調査主体：高松市・高松商工会議所

※調査対象：高松中央商店街を構成する 8 商店街振興組合

2. 目標達成の状況【c】

評価指標である中央商店街の空き店舗率の減少に向けては、南部地域での各種事業が想定より進捗しなかったことや、第1期計画で完了した丸亀町商店街の再開発事業効果が薄れてきたことなどにより、縮減には至らなかった。また、当初は各種取組により 17 店舗の減少を目標として掲げていたが、中心市街地を取り巻く状況や、市民ニーズの変化等により主要事業の進捗が遅れ、結果として目標達成には至らなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高松丸亀町商店街回遊性向上事業（高松丸亀町まちづくり株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 25 年度【未】
事業概要	丸亀町商店街C街区再開発ビルの3階部分に、渡り廊下を設置することで、高齢者・障がい者等を含む施設利用者の利便性を向上させるとともに、商店街の魅力向上及び来街者の回遊促進を図る。
目標値・最新値	丸亀町の空き店舗数 (目標値)5店舗の減少 (最新値)－(未実施のため)
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	想定していた本事業の補助(地域中小商業支援事業)について、C街区再開発ビルは既に経済産業省所管の補助(戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金)により整備しているため、新たに渡り廊下を整備することに対して、本事業の補助採択が受けられず、事業着手ができなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事業着手に至っていない。
高松丸亀町商店街回遊性向上事業の今後について	当該再開発ビルに隣接する街区での再開発計画が進んでおり、そのタイミングにおいて、隣接再開発の工事との同時発注により、低コストで建設することを検討している。

②. 商店街情報発信事業（高松丸亀町商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中心市街地魅力発掘・創造支援事業
事業開始・完了時期	平成 25 年度【実施中】
事業概要	デザインコードに基づいた街路灯や休憩スペースの整備、リアルタイムな情報発信システムを整備し、情報発信機能を活かしたイベントを実施する。中央商店街の情報を発信していくことで、市民が商店街の魅力を認識し、商店街への関心を持つ機会をつくり、商店街への来街意欲を促進し、にぎわいの創出や来街者の回遊促進を図る。
目標値・最新値	丸亀町の空き店舗数 (目標値)5店舗の減少 (最新値)8店舗の増加
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	可動式のデジタルサイネージにより、イベント(商店街でのクラシックコンサート、ハロウィンパーティなど)時などの情報掲示を行っているが、常設ではない。
計画終了後の状況（事業効果）	事業着手には至っているが、丸亀町商店街全体への波及効果が限定的なため、目標達成には至らなかった。
商店街情報発信事業の今後について	今後は、免税カウンターとインフォメーションセンターを複合した施設整備を行うとともに、継続して情報発信やイベントを実施していくことで、インバウンドを含めた商店街の来街意欲の向上及び回遊促進を図っていく。

③. 高松南部商店街活性化事業（株式会社高松南部3町商店街プロジェクト）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成27年度～平成29年度【実施中】
事業概要	<p>田町、南新町、常磐町商店街の南部3町商店街で、「生活エリアと密着した魅力ある下町」をコンセプトに活性化事業※を展開し、にぎわいの創出や生活サービス機能の充実、来街者の回遊促進を図る。</p> <p>※田町商店街：高齢者の安心・交流事業 南新町商店街：さぬきの「味」育成事業 常磐町商店街：子育てママサポート事業 南部3町商店街：デジタルサイネージ整備事業</p>
目標値・最新値	<p>南部3町の空き店舗数 (目標値)12店舗の減少 (最新値)2店舗の増加</p>
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	<p>事業実施に向けて、関係機関と協議を続け、当該事業を含め高松南部3町商店街が今後遂行していくプロジェクトをとりまとめた「高松市中心市街地南部エリア活性化マスタープラン」を平成27年度に作成し、より具体的なビジョンを示した。その中で、デジタルサイネージ整備事業の関連として商店街のVR※アプリ開発を行うなど、商店街のリアルタイムな情報を発信しているが、当初予定していた各商店街の事業が進捗しなかったことが達成できなかった要因と思われる。</p> <p>※ 仮想現実(バーチャルリアリティ)の略。 現実環境をリアルなアニメーションで表現する技術。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>VRアプリ等で商店街の魅力発信等に努めることにより、通行量は増加し一定のにぎわいの創出に寄与しているものの、空き店舗数の改善には繋がらなかった。</p>
高松南部商店街活性化事業の今後について	<p>今後、実施可能な事業から順次、事業着手を予定している。</p>

4. 今後について

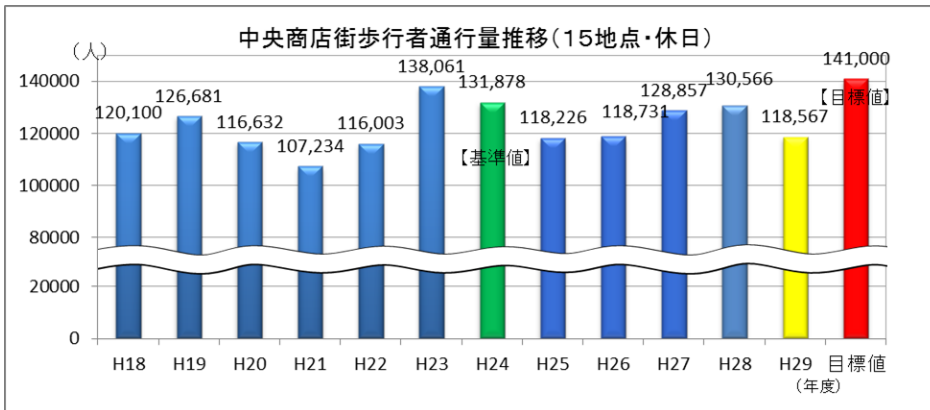
目標達成に向けた主要事業が完了に至らなかったことなど、当初想定していた効果が現れなかった。しかしながら、中央商店街へ新規出店する者に対して、直接改装費の一部を助成する補助制度を積極的に周知するなどし、空き店舗減少に努めた。(計画期間内の活用実績は29件)

今後とも、中心市街地の活性化に資するよう、各商店街振興組合等との積極的な情報共有や事業進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施していく。

目標2「まちのあちこちで歩いている人を増やす」

「中央商店街における歩行者通行量(休日)」 ※目標設定の考え方基本計画 P62～65 参照

1. 調査結果の推移



年	人/日
H24	131,878 (基準年値)
H25	118,226
H26	118,731
H27	128,857
H28	130,566
H29	118,567
目標値	141,000

※調査方法：中央商店街通行量調査を実施

※調査月：5月、10月（取りまとめは、6月及び11月）

※調査主体：高松市・高松商工会議所・高松中央商店街振興組合連合会

※調査対象：休日（10時から19時まで）の中央商店街15地点の歩行者（自転車を含む）

2. 目標達成の状況【c】

評価指標である中央商店街における歩行者通行量の増加に向けては、以下に挙げる事業が完了したものの、大部分の事業が未完了となっており、目標達成には至らなかった。また、核事業である瓦町駅核化プロジェクト事業が、完了したことにより一時通行量の伸びは見られたが、中心市街地全体としての継続した効果は得られなかった。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 歩行者空間整備事業（高松市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(道路事業) 平成21～28年度
事業開始・完了時期	平成21～28年度【済】
事業概要	JR高松駅と中央商店街を最短で連絡する市道西の丸町兵庫町線の歩行者空間を改善し、来街者の回遊促進を図る。 長さ200m・幅=6.0m
目標値・最新値	(目標値)240人の増加 (最新値)13,311人の減少
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	平成26年度までに電線共同溝の道路埋設工事、道路改良工事、照明工事等が竣工しており、27年度において、舗装工事を施工したことで、事業が完了した。 しかしながら、JR高松駅から中央商店街への動線が確保されたものの、中心市街地の来街者の回遊性の数値としての結果は得られず、目標達成とは至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	動線が確保されたことにより、休日は観光者、平日はJR高松駅を活用する通勤通学者等が通行しており、快適な歩行者空間を創出している。
歩行者空間整備事業の今後について	実施済み

②. 総合生鮮市場事業（高松ライフシステム株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 25～29 年度【未】
事業概要	丸亀町商店街又はその隣接区域に生鮮市場を開設する計画であり、野菜・魚・精肉・惣菜の生鮮4品を取り揃えた総合生鮮市場とする。この事業により、生活サービス機能の充実、来街者の回遊及び居住の促進を図る。
目標値・最新値	(目標値)1,600 人の増加 (最新値)—(未実施のため)
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	平成 27 年 6 月に開設した生鮮食料品売場(丸まるマルシェ)は、当初、将来の再開発により整備される大規模な生鮮市場のためのパイロット店という位置付けであった。その中で、店舗として売り上げを伸ばしているものの、通行量の増加に繋げることは出来なかった。
計画終了後の状況（事業効果）	着実に売り上げが増加していることから、中心市街地における一定のにぎわい創出には寄与している。
総合生鮮市場事業の今後について	生鮮市場については、周辺の生鮮食料品店舗の増加や、既存店との競合を考慮し、再開発ビルでは、生鮮品以外の製造業も含めた産業インキュベーター施設として計画の修正を行っている。

③. 商店街情報発信事業（高松丸亀町商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	中心市街地魅力発掘・創造支援事業
事業開始・完了時期	平成 25 年度【実施中】
事業概要	デザインコードに基づいた街路灯や休憩スペースの整備、リアルタイムな情報発信システムを整備し、情報発信機能を活かしたイベントを実施する。中央商店街の情報を発信していくことで、市民が商店街の魅力を認識し、商店街への関心を持つ機会をつくり、商店街への来街意欲を促進し、にぎわいの創出や来街者の回遊促進を図る。
目標値・最新値	—(個別に目標を設定していないため、記載なし)
達成状況	—(個別に目標を設定していないため、記載なし)
達成した（出来なかった）理由	可動式のデジタルサイネージにより、イベント(商店街でのクラシックコンサート、ハロウィンパーティなど)時などの情報掲示を行っているが、常設ではない。
計画終了後の状況（事業効果）	イベント開催時には多くの人々が訪れるなど、情報発信による創出は図られているものの、中心市街地全体への波及効果が限定的なため、目標達成には至らなかった。
商店街情報発信事業の今後について	今後は、免税カウンターとインフォメーションセンターを複合した施設整備を行うとともに、継続して情報発信やイベントを実施していくことで、インバウンドを含めた商店街の来街意欲の向上及び回遊促進を図っていく。

④. 高松南部商店街活性化事業（株式会社高松南部3町商店街プロジェクト）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成27年度～平成29年度【実施中】
事業概要	<p>田町、南新町、常磐町商店街の南部3町商店街で、「生活エリアと密着した魅力ある下町」をコンセプトに活性化事業※を展開し、にぎわいの創出や生活サービス機能の充実、来街者の回遊促進を図る。</p> <p>※田町商店街:高齢者の安心・交流事業 南新町商店街:さぬきの「味」育成事業 常磐町商店街:子育てママサポート事業 南部3町商店街:デジタルサイネージ整備事業</p>
目標値・最新値	—（個別に目標を設定していないため、記載なし）
達成状況	—（個別に目標を設定していないため、記載なし）
達成した（出来なかった）理由	<p>事業実施に向けて、関係機関と協議を続け、当該事業を含め高松南部3町商店街が今後遂行していくプロジェクトをとりまとめた「高松市中心市街地南部エリア活性化マスタープラン」を平成27年度に作成し、より具体的なビジョンを示した。その中で、デジタルサイネージ整備事業の関連として商店街のVR※アプリ開発を行うなど、商店街のリアルタイムな情報を発信しているが、当初予定していた各商店街の事業が進捗しなかったことが達成できなかった要因と思われる。</p> <p>※ 仮想現実(バーチャルリアリティ)の略。 現実環境をリアルなアニメーションで表現する技術。</p>
計画終了後の状況（事業効果）	<p>平成25年10月と29年5月に行われた通行量調査では同じ天候(晴れ)であったため、南部3町地点(4地点)の通行量結果を比較してみると、平成25年10月(4地点合計)32,524人 平成29年5月(4地点合計)38,508人 となっており、一定のにぎわいを創出している。</p>
高松南部商店街活性化事業の今後について	今後、実施可能な事業から順次、事業着手を予定している。

⑤. 常磐町商店街アーケード整備事業（常磐町商店街振興組合）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	中央商店街の南部に位置する常磐町商店街において、歩行者にとって快適な空間を創造するため、アーケード改修工事を実施し、生活サービス機能の充実、来街者の回遊促進を図る。
目標値・最新値	通行量 (目標値)2,500 人の増加 (最新値)13,311 人の減少
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当初、平成 27 年度実施予定であったが、国の 24 年度補正予算（商店街まちづくり事業）を活用して実施することになり、25 年 9 月に着手し、25 年 12 月に完了した。取り込まれる光量等の増加による環境改善がなされたものの、目標達成には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	アーケード天板の改修が完了し、商店街における快適な空間が提供され、平成 25 年度と 29 年度の常磐町における通行量を比較すると 14,043 人→16,508 人に増加しており、一定のにぎわい創出に寄与した。
常磐町商店街アーケード整備事業の今後について	実施済み

⑥. 【平成 26 年度追加】瓦町駅核化プロジェクト事業（高松琴平電機鉄道株式会社）

支援措置名及び支援期間	商店街まちづくり事業(中心市街地活性化事業) 特定民間中心市街地経済活力向上事業計画の経済産業大臣認定 平成 26～27 年度
事業開始・完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	駅ビル型複合商業施設の整備を行うもの。
目標値・最新値	—(個別に目標を設定していないため、記載なし)
達成状況	—(個別に目標を設定していないため、記載なし)
達成した（出来なかった）理由	事業が完了し、平成 27 年 10 月に、「瓦町 FLAG」としてリニューアルオープンした。当初は大幅な通行量の増加が見られたが、全体の波及効果として継続して数字に表われることはなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	開業に伴い、瓦町駅の電車乗降人数が増加したことを始め、中央商店街全体の歩行者通行量は、(H27.6)112,038人 ⇒(H27.10)145,676人に増加するなど一定の効果が見られた。加えて、当該施設が有する公共空間において、平成28年4月より、総合特別区域法の規定に基づく国と地方の協議会の結果を踏まえ、収益事業を含む利用価値の高いにぎわい空間として民間事業者等に開放することが始まり、中央商店街等との連携により、中心市街地の活性化を図った。 コンコースやペDESTリアンデッキにて近隣飲食店等が中心となった飲食イベントや、近隣商店街との連携イベント、行政関係イベント、物販催事等を定期的実施し、集客及び中心市街地の活性化に寄与した。
瓦町駅核化プロジェクト事業の今後について	実施済み

4. 今後について

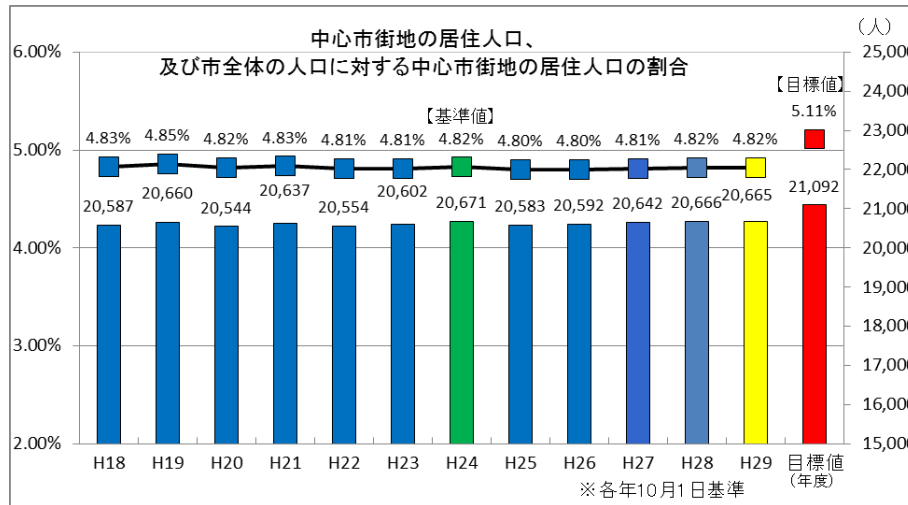
目標達成に向けた主要事業が完了し、一定の効果が現れたものの、中心市街地全体への波及効果が見込めなかったこと、また一部の未完了事業等により、目標値には届かない結果となった。その中で瓦町FLAGがオープンしたことにより、一時的には大幅な通行量増加も見られたが、継続してにぎわいを創出することはできなかった。

市全体及び中心市街地の人口は横ばいであることから、2核1モールの特性を生かしながら、商店街の魅力向上やにぎわい創出に加え、近年のインバウンド需要の増大など、広域から集客を図り、来街者の回遊性を図るような取組を行い、通行量の増加に繋げていくとともに、今後とも各商店街振興組合等との積極的な情報共有、また未完了事業の進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施していく。

目標3「中心市街地に、より住みやすい環境をつくる」

「市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合」※目標設定の考え方基本計画 P65～P67 参照

1. 調査結果の推移



年	%
H24	4.8 (基準年値)
H25	4.8
H26	4.8
H27	4.8
H28	4.8
H29	4.8
目標値	5.1

※調査方法：中心市街地内における住民基本台帳登録人口

※調査月：10月1日時点調査、同月取りまとめ

※調査主体：高松市

※調査対象：中心市街地内の居住者

2. 目標達成の状況【c】

市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合については、計画策定時より経年変化を見てもほぼ横ばいであり、目標達成には至らなかった。

主要事業として設定していた「高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業」が未着手となっていることが要因のひとつとして考えられる。

基準年値としての割合は変化していないが、人数としては20,671人→20,665人と微減のため、達成状況としてはcとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業

（株式会社高松南部3町商店街プロジェクト）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(南部3町商店街地区)) 平成26～29年度
事業開始・完了時期	平成25～29年度【未】
事業概要	常磐町、南新町、田町の各商店街の空き店舗のうち、上層部分を活用して、アパート等の共同住宅施設を設置することにより、高松中央商店街南部地域ににぎわいをもたらす、居住促進を図る。
目標値・最新値	居住者の増加 (目標値)140人の増加 (最新値)－(未実施のため)
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	事業実施に向けて関係機関と協議を続け、当該事業を含めた高松南部3町商店街が今後遂行していくプロジェクトを取りまとめた「高松市中心市街地南部エリア活性化マスタープラン」を平成27年度に作成し、具体的なビジョンを示したが、事業着手には至らなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	事業着手に至っていない。
高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業の今後について	高松市中心市街地南部エリア活性化マスタープランに位置付けられる事業のひとつとして今後も検討・協議を継続し、実施可能な物件から順次、着手することとなる。

②. 移住交流促進事業（高松市）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 平成25年度～29年度
事業開始・完了時期	平成24年度【実施中】
事業概要	本市への移住を勧めるリーフレットを用いたPR活動や空き家バンク制度を活用した居住の確保を行うこと等により、移住促進を図ることで、定住人口の増加に寄与する。
目標値・最新値	居住者の増加 (目標値)45人の増加 (最新値)6人の減少
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	事業としては、積極的な情報発信や交流会等の開催を行い、平成29年3月に「高松市移住・促進方策」を取りまとめた。「高松市移住ナビ」のリニューアル等、移住を促進するための情報発信の強化に努めているものの、市全域における社会増減が増加する中で、中心市街地に係る居住人口の増加数値に表われなかった。
計画終了後の状況(事業効果)	市内全域における、平成25年1年間の社会増減数は+355人であったが、平成29年の1月から11月までの増減数は+646人と大幅に増加した。
移住交流促進事業の今後について	平成29年度までの取組に加え、「起業志向の移住(希望)者」や「就業志向の移住(希望)者」など、大都市圏からより多くの現役層を呼び込むために、「仕事」と「移住」を関連づけた取組を強化する予定としている。

③. ロイヤルガーデン錦町一丁目（分譲マンション）（株式会社和田コーポレーション）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 25 年度【済】
事業概要	分譲マンション(42 戸)を建設し、都心居住を促進し、居住人口の増加を図る。
目標値・最新値	(目標値)42 戸 (最新値)42 戸
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	利便性や居住性においてまちなか居住の需要が高まったため、目標達成できた。
計画終了後の状況（事業効果）	整備された分譲マンションは全戸完売し、まちなか居住の推進に寄与した。
今後について	実施済み

④. ロイヤルガーデン中央公園（分譲マンション）（株式会社和田コーポレーション）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 24 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	分譲マンション(56 戸)を建設し、都心居住を促進し、居住人口の増加を図る。
目標値・最新値	(目標値)56 戸 (最新値)56 戸
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	利便性や居住性においてまちなか居住の需要が高まったため、目標達成できた。
計画終了後の状況（事業効果）	整備された分譲マンションは全戸完売し、まちなか居住の推進に寄与した。
今後について	実施済み

⑤. アルファライフ中央通り（分譲マンション）（穴吹興産株式会社）

支援措置名及び支援期間	—
事業開始・完了時期	平成 25 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	分譲マンション(45 戸)を建設し、都心居住を促進し、居住人口の増加を図る。
目標値・最新値	(目標値)45 戸 (最新値)45 戸
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	利便性や居住性においてまちなか居住の需要が高まったため、目標達成できた。
計画終了後の状況（事業効果）	整備された分譲マンションは全戸完売し、まちなか居住の推進に寄与した。
今後について	実施済み

4. 今後について

「たかまつ人口ビジョン」において、市内全域の人口は平成 27 年まで増加傾向にあるが、それ以降は減少に転じると予測されている。事業では達成できたものがあつたが、中心市街地の居住人口は計画期間内の推移を見ても横ばいとなつており目標達成には至らなかつた。

今後は、まちなか居住の推進に実効性のある施策等の実施や、平成 30 年 3 月に策定した「高松市立地適正化計画」及び 30 年 4 月に改定した「多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画」の方針も交えながら、都市機能の誘導や高質化を図り、中心市街地の魅力の強化を推進することによって居住人口の割合を高めていくとともに、今後とも各商店街振興組合等との積極的な情報共有や事業進捗等を把握し、目標指標の測定を継続的に実施していく。